

2025年12月23日

# 鈴鹿市の人口減少対策とUIJターン施策について

はじめに	…P 1
1. 鈴鹿市の人口動態の現状	…P 2
2. 現行の主な人口減少対策とその課題	…P 3、4
3. 鈴鹿市の特長、鈴鹿らしさとは？（外部からの視点）	…P 5
4. 人口減少対策課題への対応	…P 6、7
5. UIJターン施策の検討に向けて	…P 8～10
6. UIJターン施策の具体的な取り組み	…P 11
7. UIJターン施策取り組みのロードマップ	…P 12
おわりに	…P 13

明治安田総合研究所  
西尾友宏

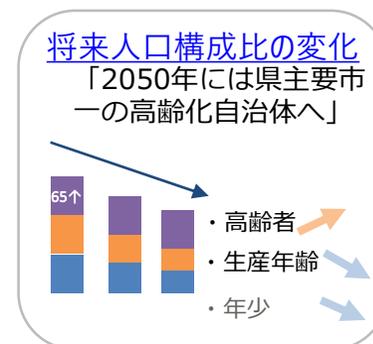
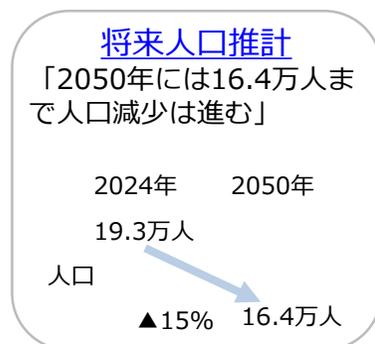
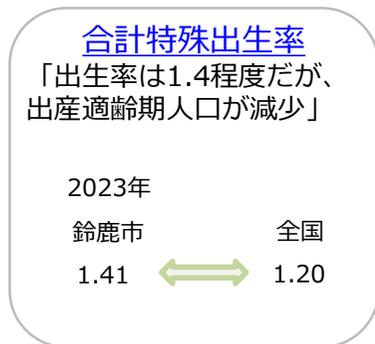
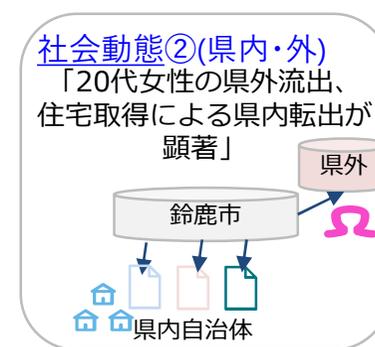
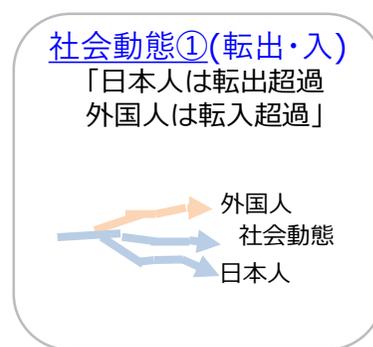
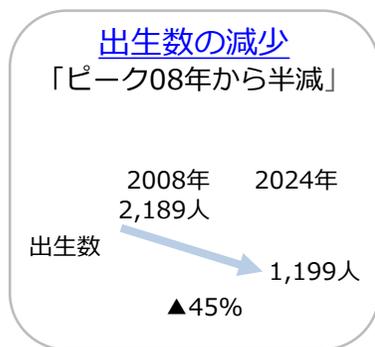
- 第2回鈴鹿市人口減少対策会議のテーマは「U I J ターン施策」
- 第1回会議で市からご提示の資料をもとに、同市の人口減少の現状と対策を再整理
- これまでの取組の枠組みや成果を前提にしつつ、今後の「鈴鹿らしい」人口減少対策、U I J ターン施策において、何に重点を置くべきかを“外部目線”も踏まえて検討（例示）するもの

## 【本資料の流れ】



# 1. 鈴鹿市の人口動態の現状（まとめ）

- 鈴鹿市は、県内の他自治体と同様人口減少トレンドにある。人口推移は出生・死亡で見た自然動態の減少幅が拡大、社会動態でも県内・県外ともに転出超過が続いており、日本人の社会減を外国人の社会増で補っている状況
- 出生数の減少は、未婚率の上昇と合わせ、そもそも出産適齢期の“人の数”が減っていることに課題
- 特に20代女性の県外流出と、“家を買うタイミングで鈴鹿を出ていく”県内転出が、長期的な出生数減少につながっていると見られる
- また、現時点では県内でも“働く世代の比率が高い都市”であるも、このままでは2050年には“高齢化が県内で最も進んだ都市の一つ”になってしまう懸念



## 2. 現行の主な人口減少対策とその課題①

- 市はこれまでも人口減少対策について、総合計画など政策の上位に据え、様々な取り組みを行ってきた
- 子育て・教育、DX、多文化共生などは全国的に見ても取り組みが進んでいる一方、人口そのものを増減させる“蛇口”である自然動向・社会動態のマイナストレンドには歯止めがかかっていない

### 仕事をつくる

- ・企業誘致、鈴鹿deはたらこっ！プロジェクト



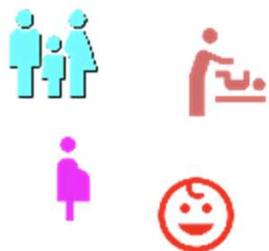
### 人の流れをつくる

- ・モータースポーツ、観光、東京事務所、SUZUKA@TOKYO



### 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・こども家庭センター、母子健康手帳デジタル化、18歳以下医療費無料



### 人口減少社会適応策

- ・生成AIによる業務効率化、総合防災情報システム、多言語通訳タブレット



出所：鈴鹿市人口減少対策会議 市ご提示資料などから当研究所作成

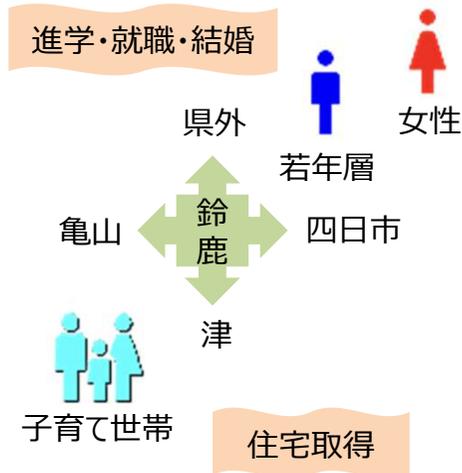
## 2. 現行の主な人口減少対策とその課題②

- 市は人口減少対策において、複数の目標数値・K P Iを設定のうえモニタリングしているが、残念ながら未達項目が目立つ（目標の難易度は考慮していない）
- メニューは揃っているものの、“誰に・何を・どの優先度で”届けるかが定まっていない可能性も。特に、若年層と子育て世帯の流出抑制・還流が弱いのが大きな課題か

【目標・KPIの達成状況（抜粋・2023年度）】

指標	目標値	実績値	ステータス
社会動態（人の流れ）	+300人	▲61人	●未達
自然動態（自然減）	▲300人	▲883人	●悪化
総人口	200,000人	195,016人	●未達
鈴鹿市内就職率	30.0%	22.4%	●未達

出所：鈴鹿市人口減少対策会議 市ご提示資料から当研究所作成



構造的な論点は・・・

- ✓ 20～30代、とくに若年女性の県外流出
- ✓ 「住宅取得」を機に四日市・亀山・津へ転出する子育て世帯
- ✓ 鈴鹿で働く場は一定あるが、若者・女性・専門職にとって“魅力的な仕事・働き方”の見えにくさ
- ✓ 将来、高齢化率の上昇が県内でも最大クラスになる懸念

### 3. 鈴鹿市の特長、鈴鹿らしさとは？（外部からの視点）

- 人口流出の抑制や流入促進に向けては、鈴鹿市らしさ、その特長を市民や関係人口（≡将来の市民候補）に訴求する必要
- 地方中核都市として、自動車産業に代表されるものづくり、豊富な教育・自然環境を有するなど、資源あふれる街を活かす

#### 立地・都市圏としてのポジション

- ・ 地方の中核的都市
- ・ 名古屋圏・中京工業地帯の一角
- ・ 鉄道、自動車で名古屋・大阪方面と接続
- ・ 都市と地方の中間、地方すぎない地方都市
- ・ 都市機能（雇用・医療・教育）
- ・ 比較的手ごろな住宅価格・自然環境



#### 産業構造・雇用

- ・ ホンダの鈴鹿製作所など自動車関連・サプライヤー多数
- ・ 製造業、特に自動車・輸送機器関連が集積
- ・ 「ものづくり企業」集積
- ・ 第三次産業（商業・サービス）も一定規模
- ・ 安定した雇用基盤の一方、自動車産業の変革（EV化・自動運転・DX）への対応が今後の課題



#### 教育・人材資源

- ・ 鈴鹿工業高等専門学校（工学系高専）
- ・ 鈴鹿医療科学大学（医療・福祉系）
- ・ 鈴鹿大学・短期大学（教育系）など
- ・ 工学・医療・福祉・教育系の高等教育機関が集積しており大きな強み



#### 生活環境・ブランド

- ・ 鈴鹿サーキットのある「モータースポーツのまち」
- ・ 鈴鹿山脈（登山・アウトドア）と伊勢湾（海）に近い
- ・ 名古屋ほど混雑せず、生活コストは相対的に低い
- ・ 若者・家族層にとって「車・バイク・アウトドア・スポーツが好きな人には魅力的」なポテンシャル



## 4. 人口減少対策課題への対応 ①方向性

- 現状の課題や、鈴鹿市らしさが表現できる資源やポテンシャルを活かしつつ、また優先度や実現可能性が高い対応の方向性として、以下の4点を抽出
- “子育て支援”単体ではなく、仕事・住まい・学び・コミュニティ・移動などを、一体として設計していくことが必要

### 1 「20～30代女性と子育て世帯」の流出抑制・還流促進

- 住宅取得・結婚・子育てを鈴鹿市内で完結できる条件づくり

### 2 製造業・モビリティ・医療福祉を核にした「若者に魅力的な街・仕事づくり」

- 若者・専門職・外国人材に選ばれるキャリアパスの提示

### 3 外国人を含む多様な子育て世帯の定住・出生支援

- 多文化共生と教育・キャリア支援の強化

### 4 DX・モビリティを活かした高齢者の生活の質向上と地域力再編

- 高齢者を“支えられる側”だけでなく“支える側”として位置づけ

## 4. 人口減少対策課題への対応 ②具体策（例示）

- 人口減少の大きな課題とみられる、若年層や子育て世帯流出への対策を、ライフステージに合わせて提供
- 加えて、“鈴鹿ならでは”と言える「モビリティ資源」と「医療福祉」の集積を、若者にとっての“働く魅力”として見える化
- 市の人口を下支えする外国人や、今後ますます増加する高齢者を、“支援の対象”にとどめず、“共に地域を支える仲間”として位置づけることで、人口減少社会の持続可能性をより高めることを志向

### 【若年・子育て × 仕事】

1

#### 若年・子育て世帯の 流出抑制・還流促進

- 「鈴鹿で家を持つ」総合支援パッケージ（住宅取得＋子育て支援）
- 子育て特化型の住宅地・街区
- 結婚・ライフデザイン支援



2

#### モビリティ・ものづくり・ 医療福祉 × 仕事の魅力化

- 「鈴鹿モビリティ・イノベーション拠点」（仮）構想など、若者が「おもしろい」と思う新機軸
- 「鈴鹿deはたらこっ！」等のUIターン版強化

### 【多文化・高齢者 × 地域力】

3

#### 外国人を含む多様な子育て世帯の 定住・出生支援

- 多言語・多文化の子育て・教育支援
- 子どもの学び・キャリア支援
- 第二子以降の支援強化



4

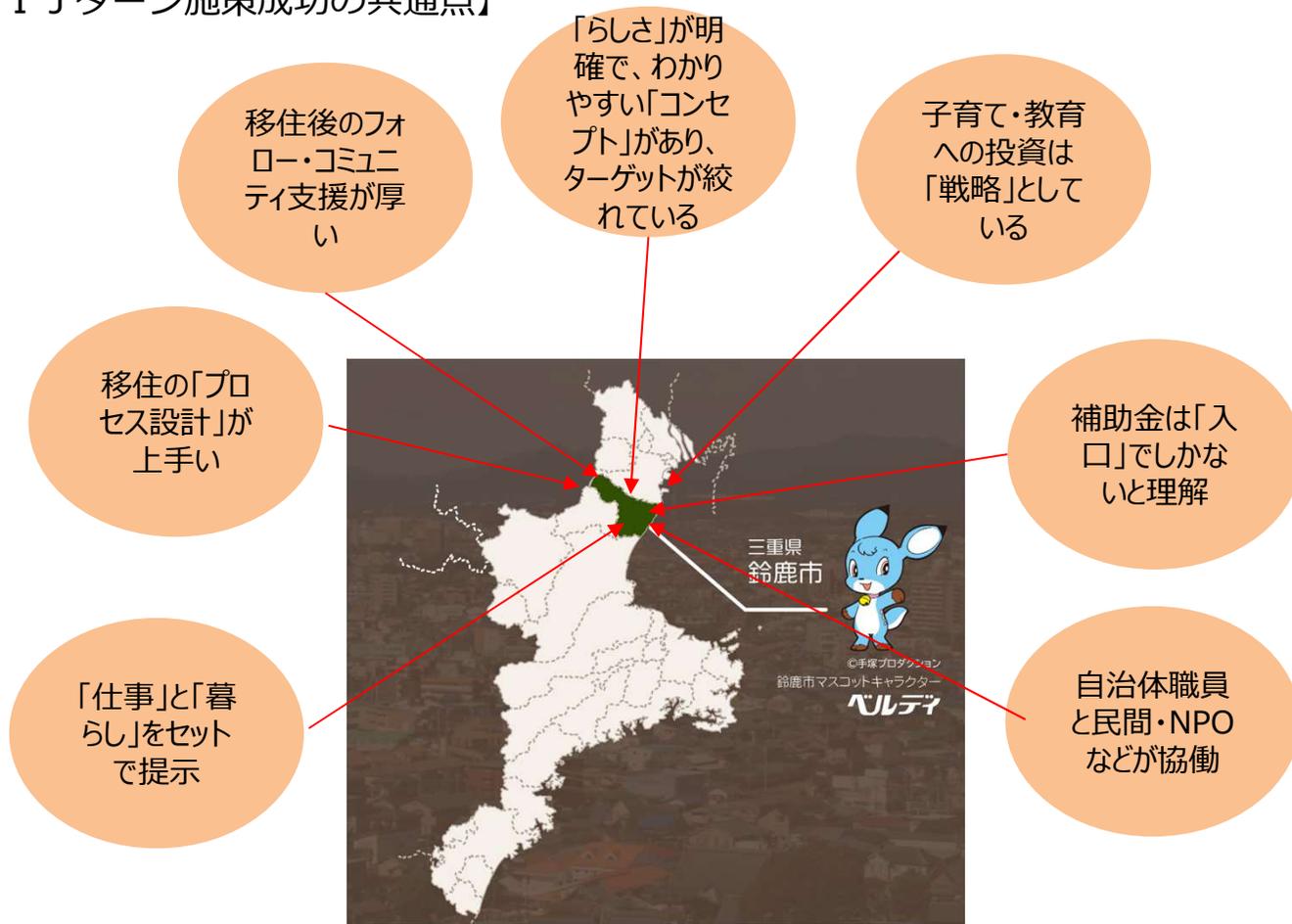
#### 高齢者の生活の質向上と 地域力再編

- 高齢者の社会参加ポイント制度
- 高齢者の移動支援 × モビリティ実証の開始

## 5. U I J ターン施策の検討に向けて ①他の自治体の事例

- さて、社会動態の減少トレンドを食い止める一つの方策として、今回U I J ターン施策の議論を行うが、これら施策の検討にあたり基盤となるのは、鈴鹿らしさを明確にした人口減少対策にあることを確認しておく
- 施策の検討にあたり、他の自治体の成功例などを踏まえ、施策の共通点を確認

### 【U I J ターン施策成功の共通点】



### <成功例と言われる自治体とその類型>

#### 1. ライフスタイル(田舎、自然、文化)

- ・ 長野県(県全体)・飯山市など
  - 「田舎暮らし」モデル
- ・ 北海道東川町 - 「外国人の増加」
- ・ 長崎県五島市
  - テレワーク×島暮らし

#### 2. 仕事・企業

- ・ 徳島県神山町 - サテライトオフィス
- ・ 岡山県西栗倉村 - 起業「百年の森」
- ・ 徳島県美波町 - サテライトオフィス+サーフタウンモデル
- ・ 島根県雲南市
  - 若者のチャレンジ支援・市民協働

#### 3. 教育・子育て

- ・ 島根県海士町 - 「離島逆転モデル」
- ・ 大分県豊後高田市 - 子育て支援特化

#### 4. 中核都市圏

- ・ 福岡都市圏(福岡市・糸島市など)
  - 「地方中核都市」モデル(糸島市はライフスタイル複合)

出所：内閣府：まち・ひと・しごと創生白書  
総務省：情報通信白書などから当研究所作成

## 5. UIJターン施策の検討に向けて ②一般的なメニューと鈴鹿市の対応状況（比較）（その1）

- UIJターン施策は様々なメニューの活用によって、情報発信から関係人口づくり、移住支援からアフターフォローまで、一貫したプロセスの提供が必要
- 自治体で一般的といわれるUIJターンメニューと鈴鹿市施策（UIJターンに限らず）を比較。それぞれ対応している要素は多いが、UIJターンへの導線があいまいな部分がある

### 【一般的な支援メニューと鈴鹿市施策との比較】

区分	UIJターン支援メニュー(主なもの)	鈴鹿市の該当施策（確認できたもの）	確認できない要素／弱い要素（現時点で見えるギャップ）
1	<b>移住相談・ワンストップ窓口</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住、定住相談センター</li> <li>・ 東京・大阪等のUIターン窓口</li> <li>・ オンライン相談・セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京事務所開設</li> <li>・ @TOKYOプロジェクト</li> <li>・ 「すずかプロモーション部」</li> <li>・ 移住・定住ポータルサイト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設ワンストップ窓口なし</li> <li>・ プロモーション・関係人口づくりの拠点が始動するも、「移住・就職のワンストップ」化はこれから</li> </ul>
2	<b>就業支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職フェア、地元企業マッチング</li> <li>・ 農林水産・観光への新規就業支援</li> <li>・ テレワーク・サテライトオフィス</li> <li>・ フリーランス支援</li> <li>・ 起業・創業補助金、コワーキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鈴鹿deはたらこっ！などで東京フェア、大学生向けセミナー実施</li> <li>・ 就労マルシェの開催再開</li> <li>・ 企業誘致・産業用地開発支援</li> <li>・ 創業促進補助金</li> <li>・ 中小企業の経営基盤強化支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林業・観光など一次・三次産業への就業支援不明</li> <li>・ テレワーク・サテライト誘致、フリーランス支援などの働き方多様化メニューなし</li> <li>・ UIJターン向け直接的な起業・創業支援は確認できず</li> </ul>
3	<b>移住支援金・奨励金</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方創生移住支援事業</li> <li>・ 市独自の上乗せ（家賃補助、引越し補助など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京圏から鈴鹿市への移住者に対する支援金の支給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援金の具体額、地方創生移住支援事業との関係</li> <li>・ 子育て世帯への加算なし</li> <li>・ 市独自の上乗せメニュー不明</li> </ul>
4	<b>住まいの支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家バンク運営（売買・賃貸）</li> <li>・ お試し移住住宅（体験居住）</li> <li>・ 子育て世帯住宅、リフォーム補助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家バンク制度、サイトあり</li> <li>・ 転入者向け空き家リノベ補助あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家バンクの物件数少ない</li> <li>・ お試し移住住宅（体験住宅）制度なし</li> <li>・ 鈴鹿市内で住宅取得を促す補助（住宅取得・子育て世帯向け住宅支援等）の具体策不明</li> </ul>

## 5. UIJターン施策の検討に向けて ②一般的なメニューと鈴鹿市の対応状況（比較）（その2）

- 子育て・教育環境の充実度は全国的にも高く（市民サービスとして充実）、UIJターンにも強み大きい分野と思われる

### 【一般的な支援メニューと鈴鹿市施策との比較】

区分	UIJターン支援メニュー(主なもの)	鈴鹿市の該当施策（確認できたもの）	確認できない要素／弱い要素（現時点で見えるギャップ）
5	<b>子育て・教育環境の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育料軽減、第2子以降無料など</li> <li>・ 子育て支援センター、放課後児童クラブ</li> <li>・ 学校魅力化、高校コース改革、地域協働学習</li> <li>・ 地域留学（高校生受け入れ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育料無料化、児童手当</li> <li>・ こども家庭センター設置</li> <li>・ 母子健康手帳のデジタル化</li> <li>・ 地域子育て支援拠点施設の充実</li> <li>・ 放課後児童クラブ</li> <li>・ 教育DX・電子図書館、空調整備</li> <li>・ 18歳以下医療費の窓口負担無料他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特になし （子育て・教育の充実度は高く、典型メニューと比べても強み大きい分野）</li> </ul>
6	<b>関係人口の創出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光・二拠点居住</li> <li>・ ワークেশョン</li> <li>・ ふるさと納税による関係構築</li> <li>・ インターン、地域プロジェクト他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モータースポーツファン拡大策</li> <li>・ 企業版ふるさと納税の積極活用</li> <li>・ 東京事務所+SUZUKA@TOKYOすずかプロモーション部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二拠点居住・ワークেশョン等の長期滞在施策なし</li> <li>・ 個人レベルの関係人口を具体的に受け入れる仕組み不明</li> <li>・ SUZUKA@TOKYO は関係人口づくりで有望だが、UIJターン・二拠点居住の明確な導線なし</li> </ul>
7	<b>受け入れ体制・コミュニティ支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移住コーディネーター</li> <li>・ 定住アドバイザー</li> <li>・ 地域おこし協力隊の受入・支援</li> <li>・ 移住者と地元住民の交流イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多言語通訳タブレットの設置</li> <li>・ 多言語動画生活ガイダンス作成</li> <li>・ すずか未来デザインLABO</li> <li>・ すずかプロモーション部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人向け対策に傾斜</li> <li>・ 「移住コーディネーター」「定住アドバイザー」のような、移住者専任の伴走役なし</li> <li>・ 地域おこし協力隊の受入や定着支援なし</li> <li>・ 「移住者と地元住民の交流イベント」なし</li> </ul>

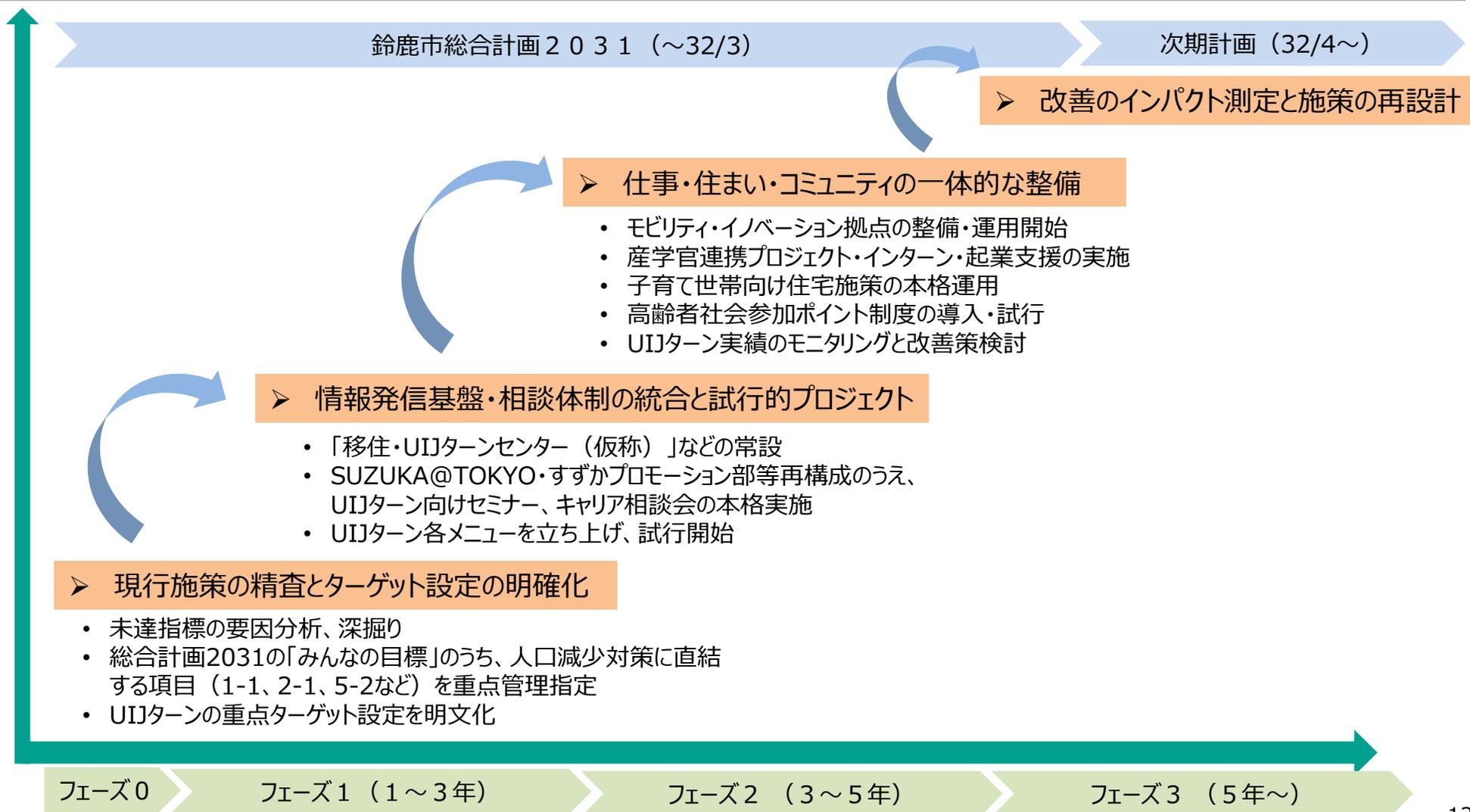
## 6. UIJターン施策の具体的な取り組み（例示）

- 施策具体化にあたり、人口減少対策との親和性を第一に、若年層や子育て世帯流出への手当てを意識した設計とした
- 加えて、“鈴鹿ならでは”と言えるモビリティ資源と医療福祉の集積を、若者にとっての“働く魅力”として見える化していく

	Uターン 出身者との「つながり」を市の資産に	Iターン クルマ・ものづくり×「生活の質」で勝負	Jターン 県内中核都市としての役割を明確に
主なターゲット	<p>(鈴鹿市出身で現在は、)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県外（特に首都圏・関西圏）で学ぶ・働く18～35歳</li> <li>・ 県内他市で働き、住宅取得層の鈴鹿市外に住む30代子育て世帯</li> </ul>	<p>(中京圏・京阪神圏に住む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製造業・技術職・IT・医療福祉の専門職</li> <li>・ クルマ・モータースポーツ・アウトドアが好きな子育て世帯</li> <li>・ (首都圏の) テレワーカー、フリーランス</li> </ul>	<p>(三重県内や東海地方の中山間地・地方小都市出身で、)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元近くに帰りたが、仕事や教育環境から中核都市を志向する20～40代</li> </ul>
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京事務所等UIJターン拠点に位置付け</li> <li>・ 鈴鹿出身者名簿の整備とコミュニケーション強化</li> <li>・ 帰省シーズンの“ふるさとUターン相談”や“鈴鹿Uターン・キャリアセミナー”開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首都圏・中京圏での“鈴鹿暮らし”セミナー</li> <li>・ お試し移住・ワーケーションの整備</li> <li>・ 医療・福祉人材向けIターン施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “地元に近い鈴鹿で働く”情報発信の積極化</li> <li>・ 県内の高校・短大・専門学校と連携</li> <li>・ 亀山・津・四日市との交通便利性を強調</li> <li>・ 県内他市との“広域UIJターン連携”</li> </ul>
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ “鈴鹿市移住・UIJターンセンター（仮）”等の開設・明示、「移住ポータル」のUI・UX向上</li> <li>・ 仕事・住まい・子育て・外国人サポートをワンストップで相談できる体制構築</li> <li>・ 移住支援金+鈴鹿市独自上乗せのターゲット明確化</li> <li>・ 空き家バンクの「使える」化 等</li> </ul>		

## 7. UIJターン施策取り組みのロードマップ（例示）

- 最後に、今後5～8年程度を念頭に、既存計画（総合計画2031・第2期総合戦略の評価）を踏まえたロードマップを例示
- 全てを同時に進めるのは困難であり、まずは“ターゲットと導線を整理”、続いて“情報発信と試行プロジェクト”、その成果を見て“本格展開と計画の見直し”という段階を経て進めるイメージ



- 第2回の人口減少対策会議にあたり、人口減少の現状と課題認識、今後の人口減少対策の方向性と、U I J ターン施策の取り組み内容について例示した
- 当方が鈴鹿市の現状や地域性、市民の皆さんの暮らしぶりなど、ミクロに精通していないことで、貴市がこれまで取り組んでこられた政策や対策への理解が十分ではない部分も多くあると思われる。そのため、すでに取り組まれているものや、効果を得ているものを見落としていることも十分考えられるが、そこは何卒ご容赦いただきたい
- 当資料が本会議の議論のきっかけや、今後の鈴鹿市の対策立案の一助になれば大変うれしく思う